



断 捨 離

代表 猪塚 とも

“断捨離”という言葉が日常に使われるようになって久しい。

物をポイポイすてるなんてもったいない、罰当たりなどと言われるものの、私たちはバブルの時代に相当な買い物をしてきて使い捨てる時代を経験してきた。しかし、戦争を経験してきた物のない時代を生きてきた人からみたら、物を捨てるなんてもったいない事。物を大事にする習慣、何かの時にはきっと役に立つと信じて持っている。

戦後世代の私でさえ思い切ることができない、思い出のいっぱいあった食器、高かったコート、大切な人からいただいたハンカチの1枚までも処分してしまうには勇気のいることである。

最近、時間と気持ちに少し余裕ができてきた私は女子会ならぬ“ばば会”と称して友人たちとランチなどする機会が増えてきた。最初は薬の話、年金の話、孫自慢-----そして「いらない物がいっぱいある、服もすてないかん----」と断捨離の話題でお開きになるのである。

私の来年の目標は「使わない物の処分」つまり断捨離である。

必ず来るであろうその日のために。

